

議 事（１）

登別市地域公共交通計画の進捗（令和６年度）について

令和 7 年 3 月 3 1 日

登別市地域公共交通活性化協議会委員 各位

登別市地域公共交通活性化協議会
会長 田 中 道 郎

令和 6 年度第 3 回登別市地域公共交通活性化協議会（書面会議）の開催結果について
春色の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、当協議会活動の推進につきましては、格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、書面より開催した標記協議会ですが、提出いただいた議案審議書について、結果を次のとおり報告いたします。

記

1 提出状況

委員 17 名中、16 名から議案審議書の提出がありましたので、登別市地域公共交通活性化協議会規約第 4 条第 4 項の規定に基づき、会議が成立しております。

2 議案の表決

議案	承認	不承認
登別市地域公共交通計画の進捗（令和 6 年度）について	15 名	1 名

3 結果

議案について、過半数の承認がありましたので承認されました。

4 提出のあった意見等について

意見の概要と対応（回答）
<p>■平日の公共交通利用者（1 便あたり）</p> <p>登別駅～登別温泉の一部について、収益から運賃を除すことでおよその乗降客数が把握できると考えられます。また、資料には「整理券を取らない方式」についての詳細な説明がありませんでした。データが取得できないのは、VISA タッチ決済に関する問題であるのか否かは説明が欲しいです。総じて、部分的な評価もできないとは思えない。</p>
<p>対応（回答）</p> <p>説明不足の部分については、お詫び申し上げます。</p> <p>整理券の部分につきましては、登別駅で J R を利用する方が、路線バスとの乗り継ぎに時間を要するといったオーバーツーリズムの課題があり、対応策として乗車時に運賃を支払い、登別駅～足湯入口の間はどこで降車しても一律の料金設定として整理券を取らない NA</p>

便を運行しております。

上記の対応により、正確な乗車人数の把握ができなくなりましたが、乗り継ぎの問題は解消されております。

この度のご意見について、登別駅～足湯入口の間は、現金による支払いは運賃箱の仕組み上、算出が困難であります。VISAタッチについては1日の利用件数の把握ができましたので、他の登別駅を経由する路線を含め、概算値となろうかと思いますが、次回以降の活性化協議会で結果をお知らせさせていただきます。

■人口当たりの公共交通市費負担額

目標値105円に対して、161円が算出された計算の詳細が示されていないため、判断が難しい。

対応（回答）

「人口当たりの公共交通市費負担額（以下「負担額」という。）」の目標値は計画で、徐々に逡減させていくこととしており、実績値の算出方法は、市の補助額を人口で除すこととしております。

前年度（市補助額5,250千円：5路線）は110円の目標に対して117円と目標達成に至りませんでした。令和6年度は、市の補助金が増加（1,819千円）し、人口が減少（△738人）したことにより、更に負担額が44円増加の161円となり前年度に引き続き目標達成に至っておりません。

補助金の増加要因の一つとして、補助金算定で「キロ当たり補助対象経常費用※」を使用しており、令和6年度のキロ当たり補助対象経常費用は379円93銭、令和5年度は356円44銭と23円49銭の増加となっており、人件費やガソリン代、車両に係る備品の値上がりなど維持管理に要する経費が増加していることが要因と考えられます。

※キロ当たり補助対象経常費用とは

「キロ当たり経常費用」と「地域キロ当たり標準経常費用」を比較し安価な単価としており、登別市の令和6、5年度は、キロ当たり経常費用となり、標準的な単価より安価となっております。

キロ当たり経常費用

└実際に運行に要した人件費や燃料費、車両修繕費などの経費から1キロ当たりの単価を算出した費用

地域キロ当たり標準経常費用

└全国21ブロックごとに一定の要件を満たすバス事業者の輸送原価（人件費・燃料費・車両費など）をもとに地域別に算出された平均的な費用

・工大～鶯別・東町ターミナル～室蘭駅前広場	21千円
・資料館前・若山営業所線（登別温泉～資料館前）	193千円
・登別温泉～幌別駅西口～若山営業所前	2,471千円
・カルルス・サンライバスキー場線	4,138千円

・幌別駅西口～東室蘭駅西口

246 千円

達成度を評価 する数値目標	現状値	目標値				
		R4	R5	R6	R7	R8
2)人口当たりの 公共交通 市費負担額	114 円	110 円	110 円	105 円	102 円	100 円
【目標値の設定方法や考え方】 ・令和元年度における登別市の路線バスに対する負担額を人口一人当たり（住民基本台帳）で算出した額を現況値として採用 ・人口減少下においても利用者の利便性を高めながら効率的な運行を行うとともに、国からの地域内フイダー補助などを検討し、路線バスの健全化を図る ・毎年、市の負担額から検証を行う						

■公共交通説明会の実施回数

バスの乗り方教室は運転手のみが対応するものではないと思います。バス事業者のマンパワー等の記載になるのでしょうか。登別市が直轄で行うことはないということでしょうか。

対応（回答）

バスの乗り方教室の実施については、利用促進の観点から実施しておりましたが、運転手不足が深刻な問題となっており、利用促進を図っても運転手が不足することにより減便や路線廃止などが発生すると、サービス低下に繋がることから、運転手確保に比重を置き進めたいと考えておりますので、次年度のバスの乗り方教室については、実施の可否を含めて路線バス事業者と検討するとともに、高齢者などを対象とした地域ごとの実施も検討していることから、市を主体とした実施についても検討してまいりますので、路線バス事業者主体の実施とは考えておりません。

■公共交通の人口カバー率

公共交通の人口カバー率算定と観光客の周遊動向のニーズ把握は関係がないと考えます。

対応（回答）

議案説明資料の中で、「今後については、登別本町において観光客の周遊動向を念頭にニーズ把握のための実証実験を進めたい」との説明ですが、実証実験は公共交通空白地域の住民に対する生活交通を検討することが目的と考えております。

一方、登別地区は観光客が登別駅周辺にあり、乗車される可能性もありますので、実証実験の利用対象者を一概に住民のみとしないことを考慮しての記載としております。

〒059-8701 登別市中央町6丁目11番地
登別市市民協働グループ市民生活担当：北出
TEL：0143-85-2139 / FAX：0143-85-7674
Mail：kyodo@city.noboribetsu.lg.jp